

	6時間目		7時間目		8時間目	
	① 仮説の設定	② 実験計画の立案	③ 検証実験の実施	④ 実験結果の処理	⑤ 考察・表現	⑥ 発表
A	自分の言葉を用い、周期とその要因（振り子の長さ、おもりの質量、振幅など）との数学的な関係性に言及した検証可能な仮説を設定した。	仮説の真偽を検証可能な実験方法を明確に記述し、さらに結果の信頼性を高めるための工夫（例：測定のリターン、誤差の考慮）を具体的に説明できた。	実験計画に基づき、正確な実験を行い、データを収集した。さらに、実験中の予期せぬ発見や気づきを記録し、それらを分析に活かすことができた。	収集したデータをExcelシートで適切に表やグラフに整理し、データから近似直線や曲線を予測し、それをグラフに表示することができた。	回帰分析を実施し、その結果から周期とそれを変化させる要因との規則性を数式やグラフを用いて、論理的に表現することができた。	一連の探究の流れ及び結果を、単なる実験プリントの読み上げにとどまらず、自らの言葉で的確かつ理解しやすい形で説明することができた。
B	自分の言葉を用い、周期とその要因についての検証可能な仮説を設定したが、数学的な関係性の詳細までは言及していない。	仮説の真偽を検証可能な実験方法を記述できたが、結果の信頼性を高めるための具体的な工夫には言及していない。	実験計画に基づき実験を行い、データを収集したが、実験中の発見や気づきに関する記録や分析は行われていない。	収集したデータをExcelシートで適切に表やグラフに整理することができたが、データの傾向を示す近似直線や曲線の予測は行っていない。	回帰分析を実施し、その結果から周期とそれを変化させる要因との規則性を表現しているが、論理的な説明や詳細な分析は含まれていない。	一連の探究の流れ及び結果を説明することができた。
C	検証可能な仮説を設定することができていない。	仮説の真偽を検証可能な実験方法に関する記述が不十分または不明瞭である。	計画した実験をすべて完了することができず、データを全て収集することができなかった。	収集したデータを基に作成したExcelシート上の表やグラフが不適切であるか、一部が欠けている。	回帰分析を実施したが、その結果から周期とそれを変化させる要因との規則性を見いだすことができなかった。	発表の際、相手に情報を適切に伝えることができなかった。

自己評価	①	②	③	④	⑤	⑥

相互評価（実験班）	①	②	③	④	⑤
氏名					
氏名					
氏名					

相互評価（発表班）	⑥
氏名	
氏名	
氏名	

\* 観点①～⑤の相互評価の際は、ルーブリックの「～することができた。」を「～するために貢献した。」として評価する。